

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2015年9月30日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第15号

沖縄芝居「いのちの簪」を観て



魂魄之塔：糸満市米須にある沖縄戦の最初の鎮魂碑。米須に強制移住させられた旧真和志村民が放置されていた日米軍民の遺骨を収集し建立した。

今年6月、沖縄芝居「いのちの簪（じーふぁー）」を国立劇場おきなわで鑑賞しました。戦後の沖縄でしたたかに生きる人々の情愛や絆を描いた作品で、慰霊の日を前に戦後70年の平和へのメッセージとして上演されました。この作品に強く惹かれたのは原作者が大城立裕さんだったからです。大城さんは、1967年に『カクテル・パーティー』で、沖縄初の芥川賞作家になられた方です。『恋を売る家』を初めて読んだときは衝撃的でした。登場する青年は、働きもせずに軍用地から入る莫大な賃料で生活し、「闘牛」に心血を注いでいるのです。「癒しの島」と形容される、理想化した沖縄を求め

めたくはありますが、大城さんの作品からはありのままの沖縄が伝わってきます。

沖縄戦をテーマにした『日の果てから』と短編集の『普天間から』も読みましたが、これまでに読んだ反戦をテーマにした小説とはまったく違うものです。激しい戦闘場面は無いのですが、隣にいた人が簡単に死んでいく場面が淡々と描かれ、肉親が死んでいく場面ですら悲しむ姿も無いのです。戦争に巻き込まれた人たちの嘆き悲しむことすら出来ない悲惨さが凝縮されています。大城さんは「沖縄の戦争を小説に書くことは、『生活の場が戦場になるとは如何なることか』という問いを発することにはじまった」とし、その「具体的な答えの一つは、社会の制度や文化が壊滅するということ」と説明されています。私たちが「癒しの島」と呼びたがっている沖縄は、沖縄が本来持っていた社会の制度や文化が沖縄戦によって壊滅させられ、その後の米軍支配と日本の政治によって翻弄され続けた姿なのかもしれません。

「いのちの簪」のカーテンコールの後、司会者から「今日は、会場に特別な方が来られています。原作者の大城立裕先生です。先生は80歳を超えられても現役でご活躍されています」とありました。大城さんは会場からの拍手に笑顔で応えられていました。

(前川 修 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン)

2015年度第2回ボランティア講座

外国につながる子どものことばとこころ

～生きぬく力をはぐくむ 学校・家庭・地域の役割～



崔炯仁さん（左）と中山美紀子さん

7月25日（土）、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンにて、2015年度第2回ボランティア講座「外国につながる子どものことばとこころ ～生きぬく力をはぐくむ 学校・家庭・地域の役割～」が開催されました。

この講座では、京都市立春日丘中学校日本語教室の中山美紀子さんと、いわくら病院精神科医の崔炯仁さんを講師に、フィリピン系のこどもたちと学ぶ会の内田晴子さんをコー

ディネーターにお迎えし、外国にルーツや文化的背景を持つ子どもたちの母語の獲得と考える力や心の育ちとの関係について、お話を伺いました。

「母語と日本語 ～心と考える力を育て、なりたい自分になるために～」と題された中山さんのお話では、外国につながる子どもたちが授業や学習で用いる言語を身につけるためには母語の力を伸ばさなければならず、そのためには家庭において親が思いを一番伝えられる言葉で話し、コミュニケーションを取る必要があることが指摘されました。母語を基礎とした言語能力の確かな発達が、思考力やコミュニケーション能力、豊かな感情と、アイデンティティや自己肯定感を育み、それが将来展望や未来を切り開く力につながるということでした。

また、崔さんの「心を見わたせる心を育てる ～メンタライズ mentalize のお話～」では、子にとっての「母の言葉」が母にとっての主言語ではないという状況や、在日外国人の親が日本社会や家庭の内外で様々な差別や制約、心的負担を受けるなかで親としての機能が低下することが、外国につながる子どもたちの心の成長に影響を及ぼすことを指摘されました。その上で、自分と相手の言葉や行動の奥にある心を慮り、理解するための「心を見わたす心」＝メンタライズする力の成長の遅れを、地域や教育現場において補い、育てることの大切さについて話されました。

日本全体で、そして京都でも、外国につながる子どもたちが増えるなかで、子どもたちを学校や家庭、地域で共に支え、共に生きるための仕組みづくりが求められていることを、言語教育と精神科という、それぞれの専門的視点から、分かりやすく教えていただくことができました。



第26回 東九条改善対策委員会 × 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

東九条 地域・多文化交流夏まつり

8月22日(土)、東九条改善対策委員会(登録団体)主催の東九条地域・多文化交流夏まつりが開催されました。これには京都市地域・多文化交流ネットワークサロンも毎年協力しています。ボランティアスタッフとして参加された大学生の吉田佳奈美さんに感想を寄せていただきました。

蝉の音が鳴り響く、汗のしたたる夏の日。今年も東九条にて第26回目の夏まつりが行われました。会場は大盛況。至る所で笑い声が聞こえる、「楽しい」がぎゅっと詰まった空間。私もチケット売場のお手伝いをしつつ、出店をめぐり、子どもたちと遊び、さらには外国人男性の方の注文ガイド役としてお店を連れまわされるという、目まぐるしい時間を送っていました。ここだけの秘密ですが、この外国人の方にはすれ違う時にこっそりウインクをプレゼントしてもらえたので、私だけのちょっとしたお駄賃は貰えたつもりでいます。



こんな新しい出会いや再会に溢れたとても楽しい夏祭りでしたが、私たちがこうして一つの場所に足を揃えて向かうことはこれが最後かなあ、と来る卒業に切なくなる夏祭りでもありました。私たち立命館大学の4回生が東九条の皆様と出会い早くも3年。私たちは来春、それぞれの夢に向かい別々の道へと進むこととなります。だから「最後かも」なんて皆が心のどこかで思っていたわけです。でも、結局最後に口を揃えて出たのは「また来よう」の一言でした。3年の間にすっかり体に沁み込んだ東九条の魅力からは、簡単には離れることはできそうにありません。多くの出会いの中で過ごした時間は特別です。出来ることならこれから先もずっと続いていくものであってほしいと、そう強く思いながら、消えゆく花火を並んで眺めた夏の終わりでした。

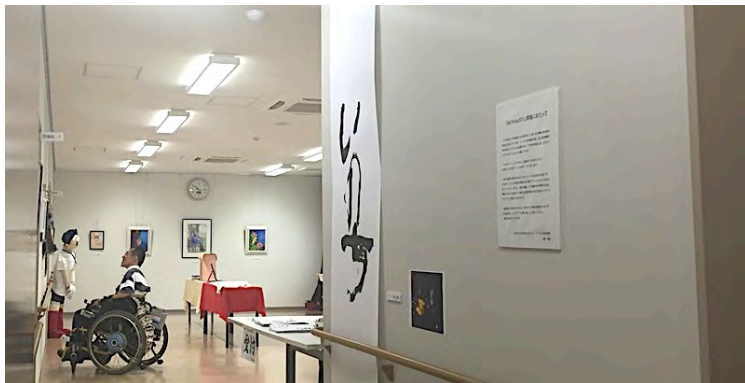
来年の夏もまた、新しい出会いと再会の場所となりますように。あの場所に置いてきた希望が、来年の夏咲きますように。

(吉田 佳奈美 立命館大学産業社会学部4回生)



〈サロン利用者の声〉

Artfesta 2015 ～エボリューション（進化・発展）



2015年8月22日(土)～8月24日(月)までの3日間、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンの多目的ルームをお借りして「Artfesta2015」を開催させていただきました。

今年で2回目になります。テーマは「エボリューション(進化・発展)」と決めて作品を募集しました。

今年は42名(団体)の47作品の作品が集まり、そのすべてを展示させていただきました。当事者の作品のみならず関係機関の健常者の方々の力作もありました。

ひとりひとりが自分の得意技を持ち寄ってアートにしよう。もちろん、音楽や演劇、その他諸々、他に表現の方法は無限にありますが、今回は絵画・陶芸・写真・書道・工芸に限定しました。作品の出展者を障害当事者とせずに関係者も含めたのには、互いの理解を深めながら既成概念の変革にチャレンジしたい、との強い思いがありました。「どれが障害のある人の作品か解らない」と言われたのが印象的でした。

開催期間中は100名以上の方々にご来場をいただきました。ご近所の方々やネットワークサロンのスタッフのみなさまにもご来場していただきました。心から感謝いたします。ありがとうございました。

(大崎雅彦 ワークス共同作業所)



〈シリーズ〉登録団体との連携・紹介 (15)

ギャンノン 京都是んなりグループ

ギャンノン (GAM-ANON) とはギャンブル依存症の家族、友人のための、全国にある自助グループです。本名や身分を明かす必要もなく、どんな宗教、政党、組織、団体にも属しません。ミーティングで話したり聞いた情報は必ず守られます。京都是んなりグループは小さい規模ですが、ネットワークサロンさんのお陰で続けられることをみんな心から感謝しております。

ギャンブル依存症という言葉をご存知でしょうか？ ギャンブル (パチンコ、競馬、競輪等々)

のせいで、仕事や人間関係や借金問題などで困難が生じているのに、やめたくてもやめられない！という状態が続き、社会生活がままならなくなります。ギャンブル依存症は意志や根性や育て方の問題ではなく、病気だといわれています。しかし、そばでみている家族や恋人や友人はどうしてよいかわからず、どうすることもできず、誰にも相談できず、深い悲しみや怒りや絶望で孤立し、孤独の日々を送っています。いつまでも立ち直れない大切な人との信頼関係は崩れ、深く傷ついています。

ミーティングでは、決して批判せず、言いつばなし聞きつばなしで、誰にも言えなかった自分の悩みや気持ちを分かち合うだけです。ただそれだけなのですが、いつしか問題に立ち向かう勇気と希望をもてるようになります。同じ痛みを持つものだからこそ、理解し、受け入れ、時にはともに涙し、ともに笑い、前を向いて生きる力をつけていきます。仲間とともに過ごす小さなミーティングの積み重ねが、新しい生き方への扉をあけてくれます。苦しんで悩んで責めて羨んで…かなしみの中に生きるより、感謝できるようになり、困難を乗り越えていく力や自分で自分を幸せにする勇気をもてるようになります。

第1、第3木曜日の2時からミーティングを開いています。まだ誰にも言えず苦しんでおられる方がおられたら、是非一度ドアをたたいてください。ここに幸せの鍵があるかもしれません。

(のん 京都是んなりグループ)



初めてミーティングに来られた月を記念して、一年毎に仲間でお祝いしています。

新しく
はんなりグループ
開催します。

ギャンブル依存症の家族、友人のための自助グループがGAM-ANON=ギャンノンです。
ギャンブル依存症の家族、友人という同じ立場の人たちが集まってミーティングを行っています。
匿名ですから本名や身分を明かす必要はありません。
ミーティングで聞いた他人の情報を強らすこともしません。
ギャンノンと出会い『解決できない問題はない!!』ということを知り、希望と勇気を持つことが出来るようになりました。
絶望の淵に立たされてどうしようもないと思っているあなたも是非、会場にいらっしやいませんか？
一緒に分かち合いませんか？
資格も会費もありません。予約や事前の連絡も一切必要ありません。
直接会場にお越しください。お待ちしております。

日時：第1、第3木曜日 14時～15時30分
会場：京都市地域・多文化交流ネットワークサロン(希望の家)
京都市南区東九条東本町3
アクセス：JR京都駅、市営地下鉄九条駅より徒歩15分

MAP

〈サロンへのメッセージ〉

ヘイトスピーチしにくい社会をめざして

～第4回東九条春まつり映像報告その後～



裁判でも掲げられた横断幕とともに

通信第14号で紹介してもらいましたが、東九条春まつり「映像の部屋」でミニ講演会をしました。2009年12月、京都の朝鮮学校におしかけた集団が、聞くに堪えない言葉をスピーカーで延々1時間も叫びつづけた事件をご存知でしょうか。「映像の部屋」では、その時の様子、事件後の学校に寄せられた支援の言葉や、裁判でたまたかかって勝ったことなどを編集した動画を見ていただきました（準備不足ですべてお見せできず申し

訳ありませんでした）。裁判では賠償金が認められ決着しましたが、残念ながら同じような悪質な行為は全国のあちこちで今もつづいていて、「ヘイトスピーチ」として知られています。

ミニ講演では、誰かの民族性や人格を徹底的に傷つけたり、同じ社会で生きていくことを否定したりする言動は、表現の自由として扱われるべきではなく、人種差別として扱われるべき問題で、繰り返されてはならない行為ですと話しました。森田基彦弁護士にも訴訟の話をしていただきました。聞いてくれた人は、「そんなんは絶対おかしいわな」と強く共感してくれました。決して難しい問題ではないはずなのですが、どうしてヘイトスピーチは後を絶たないのでしょうか？

「そんなことをしてはダメだ」と面と向かって言うのは勇気がいることです。きっと誰かが言ってくれると思っていたら、あまりにひどい言葉を浴びせられて身動きがとれず、その場にいた警察もいっこうに止めてくれない、それが現実に行き起きていることです。

だから今、裁判が終わって求めていることは、京都府と京都市が人種差別をあおりたてる行為はダメだと宣言して、断固たる態度を示すことが一つです。そうなれば警察も動くでしょう。地域社会も「隣人が傷つけられて黙ってへんで」「一緒におるで」と今以上に動いてくれるでしょう。もう一つは、被害者のケアと実態調査です。傷つけられた側の痛みを受け止め、分かち合い、自分たちの生活の問題と結び付けることで、差別をしにくい社会がつくられていくのだと思っています。

(さとう大 エルファ共同作業所)

- 所在地: 〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町 31 (京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内)
- TEL: 075-671-0108 FAX: 075-691-7471 E-Mail: salon_kyoto@ck9.so-net.ne.jp
- 開館時間: 9時～17時 WEB サイト: <http://k-tabunka.com>
- JR 京都駅・京阪東福寺駅・市営地下鉄九条駅 徒歩 15分
- 京都市バス 42・202・207・208 系統 九条河原町下車 徒歩 10分